

先日、1年生の生活科の学習に招かれて教室に行きました。子どもたちから「校長先生のお仕事は何ですか」という質問があり、わかる人はいるかなと聞くと、ある女の子が「学校をぶらぶらすることです」と答えてくれました。子どもたちの学習の様子や施設の安全を確認しながら学校を回っているんだけどと思いましたが、担任と私だけが大笑いでした。

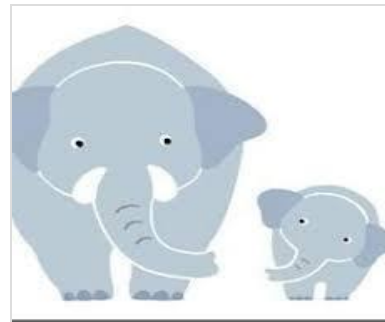
ぞうさん ぞうさん おはなが長いのね

昨日、7月の全校朝会で「ぞうさん」のお話をしました。(昨年の学校便りで書いた内容なので覚えておられる方もあるかもしれませんが)

まずはこの歌を聴いてください。(徳永先生のギター弾き語り)

♪♪ぞうさん ぞうさん おはなが長いのね
そうよ かあさんも 長いのよ
ぞうさん ぞうさん だれがすきな
あのね かあさんが すきなよ♪♪

誰もが知っている「ぞうさん」です。この歌を作詞したのは、まどみちおという人で、友だち100人できるかなの「1年生になったら」、白やぎさんと黒やぎさんが出てくる「やぎのゆうびんやさん」などの歌の詞も書いています。



「ぞうさん、ぞうさんおはなが長いのね♪」とほのぼのと歌われているこの歌詞は、実は森の動物のキリンやサルや他の誰かが、ぞうの子どもに向かって言っている言葉なのです。生きておられた頃のインタビューに、まどさんはこんなことを言っておられました。

「おはなが長いのね」の意味は、「子ぞう、おまえの鼻は、自分たちの鼻と違って、長くて変だ」と悪口を言っているのです。でも言われた子ぞうは、「キリンさん、あなただって、首がとっても長くて変だし、おさるさんはおしりが真っ赤赤じゃないか」と言い返したりしません。しょげたり腹を立てたりする代わりに、「そうよ、それがどうしたの、一番好きな母さんも長いのよ」と誇りを持って答えています。それは母さんが大好きで、母さんと同じ長い鼻を持つぞうとして生きていくことはすばらしいと思っているからです。この歌はぞうに生まれてよかったぞうの歌なのです。

ぞうもキリンもさるもそれぞれ違うけどそれでいい、みんなが仲良くしようということです。これは肌の色や目や髪の毛の色が違う私たち人間も同じことなのです。

鳥取県では、毎年7月10日から8月9日の間、部落解放月間としてみんなが仲よくしよう、差別をなくそうという運動が行われます。羽合小学校でも、「みんななかま」「差別をなくそう」というワッペンを付け、この活動に参加します。

皆さんの中に、友だちの悲しむことを陰でしたり、仲間はずしをしている人はいませんか。自分には関係ないと思ふふりをしている人はいませんか。皆さんには、友だちや周りの人を大切にする羽合小学校の目標「やさしい子」になってほしいです。

この期間中に、自分たちの学級や身の回りの生活の中に人権に関する問題はないかどうか、子ぞうさんに悪口を言っているキリンやサルの気持ちが自分の中にあるかどうか、各学級で振り返ってみてほしいと思います。

